

## 第八節 大正時代諸事

(年) (主 な で き こ と)

- 元 ○同年冬より二年春まで腸チフス大流行。  
二 ○和泊自治研究会組織重要事件研究す。  
○同年、往昔井戸は和泊池里、下殿内、与名川、伊延、手々知名、上中城、中城、下中城、前殿内、福里、後殿内、金久、内城金城、元治年鑑以降、和泊宮窪、大飯屋、中馬、山崎、手々知名ス金久十七ヶ所にて水筋を採掘せざれば湧出せざるものと心得而已ならず硬石は穿鑿し能はず、又穿掘するには口を広潤にし居りしに、玉城字村山植吉氏、種子島にて掘井に従事し心得あり四五尺位の口にして硬石も直立穿鑿深淺こそあれ湧出せざる所は容易になきと推測、玉城字は翌年まで十余ヶ所、爾来各字続々堀設従前の不便を免れ至大の鴻

- 益となり。実に特筆すべきものなり。  
○三年継続事業として与和港開鑿工事あり総工費(村費)一〇三五円二六銭。  
三 ○百合根上作。  
○七月、和泊下雲登、砂運道改修。

- 同年、和泊村避病舎新築設備成れるを以て昇格して伝染病院となる。  
○同年九月、和泊伝染病院(旧避病舎)井戸新設。  
○同年、上手々知名菅村芳弘氏米国ドクトル学位受領、布畦ヘライに開業、外国学位修得の嚆矢。  
○九月九日、夜南風、大暴瀆。  
和泊日置力子氏、松尾璞元氏、伊集院納実氏、甲東平氏、撰正高氏、阿多実美氏宅地石垣破壊、且つ矢野盛綱氏(与名川にある湯屋)堀神里氏、武田寿間氏、川内薫盛氏家屋破壊。  
四 ○六月、和泊棧橋築骨。  
五 ○十月、永嶺線(上城界より和福土フクチまで)、道路改修

六 ○六月、和泊小学校井戸新設。

○十一月九日、手々知名平瀬覚熊氏(四十一歳)囲碁二段(上手に対し二三の手合)方円社より免状授与せらる。本島より段中に入る嚆矢。

○十一月十一日、和泊小学校庭前に於て本郡第六部、和泊知名与論三村青年団発会式挙行に付郡団長代理石原視学臨場。

七 ○二月二十日、前大城尋常小学校長沖元綱、三十有七年功勞に対し和泊村有志金盃一個(径二寸五分価百円)贈遺。

○四月、大島汽船株式会社(株金五拾万円)創立借船にて事業開始八年四月八百余屯東成丸式拾七万円にて購入。

○六月二十一日、橋本知事、小野田島司、村役場・分署・学校視察の末学校に於て、役場学校職員有志へ訓示演説あり。

○同年、大島郡信用販売組合之購買組合併置。

○七月、門松経元氏、京都大学政治経済科卒業、大学卒業の嚆矢。

○十月、国頭線、玉城線道路改修。

○十月三十一日、和泊村長より、操坦勤氏へ感謝状贈呈左の通り。

教育の進歩産業の振興道德の維持経済発展、地方の改良、自治の開発に關し多年尽力する所少からず今後一層の奮勵を望む茲に金五拾円を授与す。

○十二月四日、操坦道氏、九州大学医学科卒業。  
○四月二日、南州橋架橋。

○同年、伊延海岸より和泊馬石まで道路改修。

○同年、薩摩貿易会社創立本島の百合球を鹿兒島開港と共に輸出せんと、鹿兒島商人の計画なりしも一敗地に塗れ大正十一年解散、本村出資株は元金を還附する事に決したり。

○四月十八日、知名村農商務主任書記関周明依願退職(六十四歳)

大山共有地、上城奥川溜池西部へ五十年前松大木ありしも伐絶の処明治廿八年十二月、関周明知名村勸業委員任命後山中南北並芦清良通路両側へ三十年松苗植付三十六七年迄黒貫島尻瘦地へ松種植付繁栄、谿谷

へは毎年挿杉、田皆番当原に茶園、山道に樟を植栽努力せり。大正三年瀬利寛、島尻岐道塔辻へ家屋營設林業技手英宗呈、常詰山番人前松里、成田植村、交代勤番取締、爾来杉樟の外檜楨等造植す。和泊村は三十七年勸業委員廃止後は村役場書記と山番人にて造林取締致す。藩政時代は一ヶ方山方横目二名山番二名都合十二名を以て三方限り受持水源涵養林其他取締致す。

九 ○明治橋石橋に架け換える。

○四月一日、普通町村制実施。(註) 助役の職制は大正九年、町村制実施までなかった。

和泊、知名村会議員定員各二十四名となり六月廿六日選挙。同年七月六日、知名村長新納直定 助役東前広 収入役岡本安広 同八日和泊村長沖元綱 助役山口禎善 収入役木藤貞亮、選挙及び選定を為す。

○同年七月、和直綱東北帝国大学理科卒業

○九月、和泊山下兼道氏(明治八年生)勲四等に叙せらる。初め普通陸軍歩兵にて入営累進、

るなく就中農事改良、設備製肥に独特の手腕を揮ひ在職四年終始一日の如く治績挙げ村民悦服す、明治三十八年後進に道を譲りて勇退し明治三十九年勲七等に叙せられ青色桐葉章を授けらる幾ばくもなく明治四十年挙げられて県会議員となる是より先議員は自己の長所にあらずとして固辞し煩を鹿児島に避けたるも郷閭既に君の諾否を用ひずして選挙準備整たり又以て君が謙讓の徳の高きと里俗の敦朴なるを知るべし任期満了の後は専ら田園に親み大正二年后蘭袋の田地一町歩余を購入し深き造詣を以て肥料試験を行い苦心の効果空しからず遂に大正五年過燐酸石灰配合使用の要諦に到達し普く成績を表示して近郷を訓化す由来後蘭田舎平永嶺瀬名内城の五区は熟田多く荒蕪に属するもの君の丹精により一朝にして美田豊穰し米作の増石額実に三十割を算するに至る区民の君を謳歌する誠に故なきにあらざるなり因りて資を醸し其績を不朽に伝

陸軍一等主計従五位勲四等。

○十一月、和泊南分岐道より与和、余多接続まで道路改修。

十 ○四月七日、大島汽船株式会社東成丸伊延港西部へ座礁難波。

○十月九日、東成丸和泊来津、港口荒波のためはしけ転覆、五名死亡。

○同年十月、内城線道路改修(大城線より内城学校まで)。

○八月、松尾実友氏(二十七歳) 司法官試補命ぜらる。(年俸千円十二年六月予備判事十二級俸下賜) 本島より高等文官の嚆矢。

○十二月二日、後蘭に沖島曾徳彰徳碑建置

碑文

山高きが故に貴からず木あるを以て貴しとす、現代は益々有為有徳の士を仰望する最も切実なり宜なる哉沖島曾徳君功徳の発露する蓋し偶然にあらず君資性温厚寡黙にして夙に勸業の志篤く明治三十五年和泊外十七ヶ村戸長に任ぜらるるや施設経営到らざ

ふ。

嗚呼雲山蒼々江水決々後世子孫を風化する渺少にあらず聊か其梗概を叙すと云爾

大正十年 沖洲山口禎善謹撰

○同年、初めて飛行機が島の上を飛んだ。

十一 ○一月六日、村有和泊字東風平宅地壹反五畝十六歩の内西南両側より道路開通残余の内登記所敷地土持綱利氏金貳千六百円、秋葉店敷秋葉泉川氏金千一百円にて落札。

○四月、梶原景徳氏所有和泊字石川平畑壹反歩金七百円を以て村買入登記所移転。

○壮丁検査、明治十七、八両年名瀬に於て十九年亀津に於てありし処本年同所にてあり。

○八月十二日、知名、与論間無線電信開始。

○十一月、西原並に畦布支道改修。

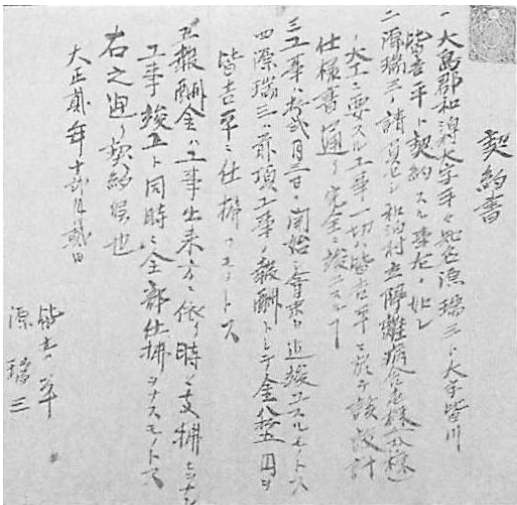
○十二月十一日、和泊郵便局長西彦熊正七位に叙せらる。先是八年二月勲七等陸叙瑞宝章を授けらる。

○十二月十七日、警察沖永良部分署和泊字石川平にありし処敷地狭隘庁舎腐朽に付字東風平

十二 ○関東大震災。  
敷地村寄附庁舎二十五坪新築移転執務。

十三 ○和泊港の開さく工事を行う。  
○沖島曾徳和泊村長となる。内喜名港開さく工事。

十四 ○五月五日、法律第四十七号衆議院議員選挙法公布。(普通選挙法)  
このころから二期作が一般に広がった。



和泊村における最初の請負工事契約書

十五 ○七月一日、郡制廃止に伴い島庁を廃し支庁とし、島司を支庁長と改める。

○沖永良部分署が沖永良部警察署に昇格す。

- 参考資料
- (1) 沖永良部郷土史資料  
操垣勁編「沖永良部島沿革誌私稿」
- (2) 永吉毅編「郷土史年表」
- (3) 和泊町編「和泊町勢要覧」